



全国学力・学習状況調査から見えること（I）

7月31日、例年より早く文科省は今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果を公表しました。ご存知の通り、秋田県は今回も全国トップクラスの成績でしたが、気になる本校の結果についてお知らせします。

結果は、右のグラフの通り、国語Aでは若干県平均を下回りましたが、他の教科については、数ポイントずつ県平均を上回る良好な成績でした。

点数だけを見て一喜一憂するのではなく、どのような問題に弱点があるのか、設問ごとに分析することが大切と考えます。ここでは、全国

や県と比べて正答率が低いから「弱点」と考えるのではなく、全国や県を上回っていても極端に正答率が低いもの（正答率60%以下）を「弱点」として取り上げてみます。

《国語》

- ・文章のつながりや意味を考え、与えられた条件を満たすように文章の穴埋めをしたり文章を書いたりする問題。

《算数》

- ・式の意味を問われる問題。

（例） $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ。

シートの混み具合を比べる式の意味について正しいものを選ぶ。

円の直径が2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ。

- ・グラフが何を表しているかや、そこから読み取ることができることを問われる問題。
- ・自分の考えを、条件に合わせて式や言葉で書く問題。

（例）横の長さが7mの黒板に輪飾りをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く。

《理科》

- ・示された実験やその結果から、どのようなことが言えるかを問われる問題。
- ・条件を満たすために、どのように実験したらいいかを問われる問題。
- ・実験を通して導かれる結論を、「学習問題」と整合するように文章でまとめる問題。

この結果からどのようなことが言えるのでしょうか。続きは次号で。

H30全国学力・学習状況調査正答率

